

電子メディアとうまくつきあおう

近年、スマートフォンやゲーム機、音楽プレーヤーなどインターネットに接続できる通信機器（インターネット端末）が広く普及し、その利用の低年齢化が進んでいます。平成27年度に鳥取県教育委員会が実施したアンケート調査の結果でも、鳥取県の多くの小中学生がインターネット端末を利用していることが分かりました。また、利用に伴い、トラブルに巻き込まれる子どもたちも増えています。電子メディアの利用について、家庭等で話し合ってみましょう。

インターネット端末の
利用率

小6 80.9% 中2 86.2% 高2 96.2%

利用している子どものうち
トラブルを
経験したことがある

小6 13.3% 中2 28.4% 高2 38.4%

主な内容
・睡眠不足
・知らない人から連絡が来た
・人間関係のトラブル
・メール等が気になり手放せない など

(H27 鳥取県教育委員会「インターネットの利用に関するアンケート」結果より)

<インターネットにつながる機器>



パソコン



スマートフォン



タブレット



ゲーム機



音楽プレーヤー



すえ置き型ゲーム機



テレビ

インターネット端末の利用で、大きなトラブルに巻き込まれる事例が増えています。

ゲーム依存・ネット依存

ひどい場合には昼夜逆転して、健康を害したり、学校に行けなくなったりする「ゲーム依存症・ネット依存症」が増えています。



動画・画像の投稿

面白半分で作った動画・画像の投稿が、色々な人に迷惑をかけたり、事件になったりすることがあります。また、進学・就職・結婚に影響することもあります。



ながら操作

歩きながらの使用は、周囲の変化に気づかず、つまづいて転倒したり、人にぶつかりケガをさせたりすることも起こっています。



個人情報の流出

SNS やブログ・プロフなどに個人情報を載せると悪用される可能性があります。また、知らない人とのID交換でトラブルにあうケースが増えています。



メール等でのトラブル

SNS やブログへの何気ない書き込みが、人を傷つけることがあります。また、メール等は短い文章が多いため、誤解も生じやすく、友だち関係が壊れ、いじめにつながるケースもあります。



不当請求

有害サイトやアプリからの架空請求や、詐欺に巻き込まれる被害が増えています。

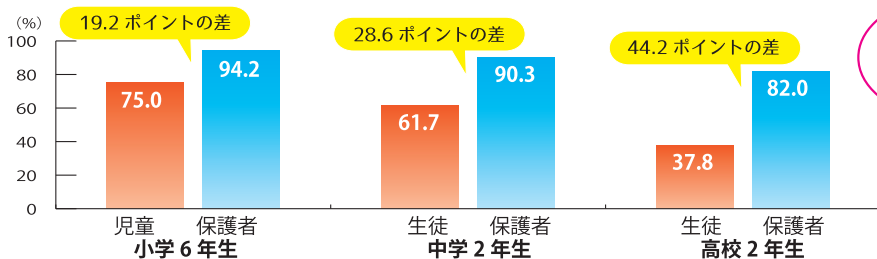


子どもにスマートフォン等インターネット端末を使わせる場合

責任を持って家庭のルールを守らせましょう。

使わせるのであれば、子どもと一緒に使用ルールを考えましょう。また、守れなかった時のルールも決めておきましょう。

「家庭で何らかのルールがある」と回答した児童・生徒と保護者の割合の比較



保護者と子どもとの間には、ルールに関する認識に違いがあります



子どもの成長に応じたフィルタリング・機能制限を設定しましょう。

ゲーム機、音楽プレーヤー、スマートフォン、携帯電話などを持たせる（使わせる）前には、「フィルタリング」や「ウイルス対策」などの対応が必要です！！

よくわからない時は販売店にご相談下さい。

夜9時以降は通信をやめさせましょう。

鳥取県教育委員会では、鳥取県 PTA 協議会が提唱した「メディア 21:00」運動を全県の共通ルールとして、地域全体で児童・生徒が安心・安全にインターネットを利用できる環境づくりを進めていこうと考えています。

「メディア 21:00」運動とは…

鳥取県の子供たちは、21時までには友だちを巻き込むようなLINEなどのコミュニケーションツールやゲームの利用をやめて、相手の時間を尊重しようという運動。

保護者自身が必要な知識を身につけましょう。

学校や地域で開催される研修会へ参加し、スマートフォン等インターネット端末の機能や子どもの使い方・使っているアプリ、困ったときの相談先などについてしっかりと理解しましょう。



ルール作り、フィルタリング等のことを勉強したいという保護者・地域の皆さんに…

研修会、親子学習会等に講師として**ケータイ・インターネット教育推進員**を無料派遣します

申込先

NPO 法人こども未来ネットワーク (県委託) TEL (0858) 22-1960 FAX (0858) 27-0271
Eメール media@kodomomirai.kirara.st URL <http://www.pref.tottori.lg.jp/67797.htm>

専用申込フォーム



問合せ先

鳥取県教育委員会事務局 社会教育課

〒680-8570 鳥取市東町1-271 番地 TEL (0857)26-7943 FAX (0857)26-8175 Eメール shakaikyoku@pref.tottori.jp

とっとり県民カレッジで熱心に学ばれた皆さんをご紹介します



「とっとり県民カレッジ」では、多くの講座を受講するなどの意欲的な学習を奨励しています。この度、以下の皆さんが奨励を受けられました。今後も学びを活かして様々な分野に挑戦されることを応援しています。

称号などの区分	お名前
4,000 単位	くみおか たかお 久美岡 隆夫 さん
3,000 単位	かど た なお 門 田 直美 さん
	すみ た ゆたか 澄 田 豊 さん
1,000 単位	た なか かん 田 中 完治 さん
	はら とみ お 原 富 男 さん

(区分ごとに五十音順)

「未来をひらく鳥取学」を受講、視聴するようになってから、人生に彩りが出て来たように思います。これからも受講していきたいと思ひます。

県民カレッジで学びを始めて満10年。よく続けました。

県民カレッジで学びを始めて13年。この間多くのことを学び、多くの人にめぐり逢えました。これは何よりの宝であり、これからもできるだけ長く学び続けたいと思ひます。

「学は一生の大事」を胸に、家族の理解と講座開設関係者の方々に感謝しながらの4年余りでした。今後ともよろしくお願ひします。

問合せ先

とっとり県民カレッジ本部 (鳥取県教育委員会事務局社会教育課内)

〒680-8570 鳥取市東町1-271 番地 TEL (0857) 26-7944 FAX (0857) 26-8175 Eメール kenmincollege@pref.tottori.jp

サイエンスカフェ鳥取2016

飲み物を片手に気軽に科学の面白さに触れてみませんか？

- ◆場所 公立鳥取環境大学 まちなかキャンパス
(鳥取市末広温泉町 160 日交本通りビル 301 号室 《まちパル鳥取 3 階》)
- ◆対象 小学校高学年以上 (先着 30 名)

参加無料
(飲み物付き)

第2回 11月20日(日)
13:00~15:00

【アレルギーを引き起こす新しい細胞の発見】



ゲスト

茂呂 和世 氏

横浜市立大学生命医科学研究科
免疫生物学研究室 客員教授

アレルギーはいまや3人に1人がかかる国民病ともいえる病気です。これまでアレルギーはB細胞の産生するIgEと呼ばれる抗体によって発症すると考えられてきましたが、我々の研究室では2型自然リンパ球(ILC2)と名付けた新しいリンパ球を発見し、ILC2がIgEに依存しないアレルギーを引き起こすことを明らかにしました。ILC2によるアレルギーの発症メカニズムを明らかにすることでアレルギーの新しい治療法開発を目指しています。

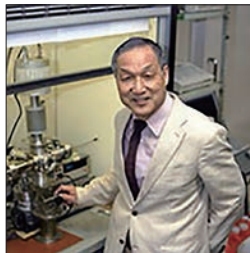
サイエンスカフェとは、従来の講演会・シンポジウムとは異なり科学の専門家と一般の人々が、喫茶店など身近な場所でコーヒーを飲みながら、科学について気軽に語り合う場をつくらう！というイギリス発祥の試みです。

※受講ご希望の方は、前々日(金曜)までに「氏名・人数・連絡先」を下記連絡先までお知らせください。

【申込・問合せ先】
公立鳥取環境大学 地域イノベーション研究センター
TEL (0857) 32-9105 Eメール kikaku@kankyo-u.ac.jp

第3回 12月10日(土)
13:00~15:00

【紫外線がいつから生命の敵になったか？】

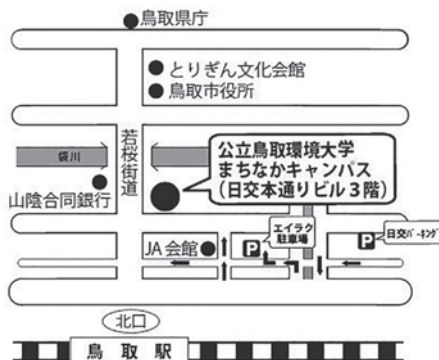


ゲスト

中川 和道 氏

神戸大学 名誉教授

皮膚ガンをひきおこすとして嫌われる紫外線。最初の生命がつけられるのに紫外線や放射線のエネルギーも必要で、「紫外線は昔は恩人かも？」という学説があります。分子から生命が生まれ、人間にいたる長い長い時間にわたる紫外線と私たちの関係を考えます。宇宙ステーションで行われている紫外線実験も紹介します。



マナビイとマナベルウくんの「へ～ふ～ん そうだったのか」コーナー



ルックン、オシドリって知ってる？

もちろん！鳥取県の県鳥だよな？



もちろん！



そのとおり！11月から鳥取県に飛来するよ。日野町にオシドリの観察小屋があるんだよ。

へえ～、僕もオシドリ見てみたいな！



へえ～



観察小屋は無料で、11月1日から3月20日の7時から17時まで開いているよ。双眼鏡が設置されていて、のぞき窓から観察できるんだ。警戒心の強い鳥だから、しずか～に観察してね。

観察小屋を運営するオシドリグループのHP
<http://www.oshidori.jp/>

そうだったのか～
マナビイ観察小屋に連れてって！



オー

※マナビイ：生涯学習のマスコット
※マナベルウくん：鳥取県を愛してやまない好奇心旺盛のカレールゥ

「意見」「感想をお寄せください」
『生涯学習とっとり』について鳥取県立生涯学習センター(県民ふれあい会館)までご意見・ご感想をお寄せください。
※お便りは本誌で紹介させていただく場合があります。C.H.H.P.